

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,266	t-CO ₂
（温室効果ガス削減換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		4,266

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量					t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）					%		%	

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
原単位当たりの排出量	0.6587	t-CO ₂ / t	0.6389	t-CO ₂ / t	0.6509	t-CO ₂ / t	t-CO ₂ / t	t-CO ₂ / t
削減率（対基準年度）			3.0 %		1.2 %		%	
原単位当たりのみなし排出量					t-CO ₂ / t	t-CO ₂ / t	t-CO ₂ / t	t-CO ₂ / t
削減率（対基準年度）					%		%	

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

削減率は年1.0%を目標に掲げているため、目標達成した。
令和6年度も猛暑によるエアコンの使用は増加傾向にあったが、ボイラーの更新を行い、省エネ効果があったと評価している。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。
備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源行動の実践 冷暖房	・冷房温度下限28℃、暖房温度上限21℃を徹底させる。 *暖房は事務所のみ	・継続実施	・エアコンのON/OFF管理の担当者を決めて消し忘れのないよう管理した。 ・電気の原単位は2023年度と比較して年平均で約0.5%の良化となった。
省エネルギー・省資源行動の実践 照明	・昼休み、就業時、未使用エリアの消灯の徹底。	・継続実施	・照明のON/OFF管理の担当者を決めて消し忘れのないよう管理した。 ・電気の原単位は2023年度と比較して年平均で約0.5%の良化となった。
工場等の製造工程における対策	・蒸気使用の各設備に設置されたスチームトラップの点検、交換の徹底。	・スチームトラップの不良発見時、即時交換	・省エネ委員会にて、毎月、スチームトラップの点検を実施するルールとなっている。不具合等が確認された時は即時修理、交換を実施。 ・ガスの原単位は2023年度と比較して年平均で約1.6%の良化となった。
工場等の製造工程における対策	・昼休み、就業時、未使用設備のバルブ閉鎖の徹底。	・継続実施	・昼休み、終業時等の設備未使用時には蒸気バルブを閉鎖した。 ・設備の使用状況によってはボイラーを止めた。 ・燃料の原単位は2023年と比較して年平均で約1.6%の良化となった。
工場等の製造工程における対策	・設備更新時には、省エネ、生産性向上を図れる設備を導入する。	・ボイラーの更新 ・工場内リニューアル計画 (①作業環境改善、②省エネ設備の更新)	・2024年10月にボイラーの更新を行った。水管式ボイラー1台を貫流式ボイラーへ更新している。 ・燃料の原単位は2023年度と比較して年平均で約1.6%の良化となった。
工場等の製造工程における対策	乾燥機など熱源となる設備の保温を行う。	・全工場の設置台数の多い設備より順次実施。	・各拠点より生産や保全の責任者が集まり省エネパトロールを実施した。蒸気やエア漏れ等を含む指摘は改善されるまでフォローを行っている。 ・指摘件数31件中28件対応済。

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標 (2030年度)	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度			
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	17.4	%		%		%		%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
kl	t-CO ₂

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

0	日
---	---

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

- ・生産で使用した水のリサイクルを継続している。

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

- ・「環境保全の日」に関わらず、毎週水曜日は定時帰宅の推進を継続している。